

強引な高校統廃合に待った!県立高校12校が存続

9月臨時県議会最終日の15日、県民や高校生の切実な声をもとに先の6月県議会で日本共産党県議団が「統廃合の対象高校の募集定員を決定する前に、議会の同意を得る」ことを提案し、成立した高校設置条例(改正)に基づき、県教育委員会が18高校を9校に統廃合する議案の採決がおこなわれました。その結果、飯山、中野、木曾の3議案は可決されましたが、他の6議案は賛成少数で否決となりました。存続が決まった12校は、「地元合意」が得られず、粘り強い反対運動が広がっていた高校でした。日本共産党県議団は、強引な「統廃合」を阻止するため奮闘された県民のみなさんに敬意を表するとともに、今後とも県民参加のより良い高校改革をすすめていきます。

議案に不同意の討論を行ったもうり栄子、藤沢のり子両県議の討論の一部を紹介します。
なお、全文は共産党県議団のホームページに掲載してあります。

もうり栄子県議 (文教企業委員会副委員長・岡谷市)

県民的な参加と議論の中で、必要なところ、総合的に検討してやむを得ないと判断されるところ、時間をかければ住民合意のできる場所は統合しても、当面、必要性も住民合意もない岡谷東と岡谷南は1年先送りすればゴーできると言うものでもなく、私は白紙撤回こそが妥当と考えます。教育をめぐって子供達を含めこのような議論が活発に行われたことは長野県政史上かつてないものであろうし、全国的に見ても画期をなすものだと思います。

今回の議論が発端となって、より良い高校教育のあり方をめぐり、真剣な議論がこれからも旺盛に続くことを願って討論を終わります。

藤沢のり子県議 (松本市)

地域でも教育現場でも、「合意なく」統合だけを先行させることは、子どもたちによりよい学習環境は提供できず、到底同意できるものではありません。

高校生が集会で語りました。教育委員会の人たちは高校の魅力って言うのは学校の選択肢の多様性というが、僕たちにとって学校の魅力って言うのは学校での思い出に胸が熱くなるということだと思います。未来は私たち高校生そのもので、魅力って言うのは高校生そのものだと思います。そして学校の主人公である僕たちの声を改革に活かしてもらえない。

県議会は僕たちのために何をしてくれるのと問いかけました。

未来を担う高校生たちの母校を守りたいという切実な願いに真摯に応え、がんばれば道は開かれるという希望を開いてあげようではありませんか。

ご要望をお寄せください

連絡先：日本共産党長野県議団 長野市南長野幅下692-2
TEL 026-237-6266 FAX 026-237-6322

ホームページ <http://www.avis.ne.jp/~up/> E-mail jcpngnkd@avis.ne.jp